

2023 年度 群馬パース大学 FD 活動報告書

本学は豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療職を育成することを目的として、国家資格を有する看護師・保健師・助産師・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士を養成している。

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症へと移行し、学生による FD 活動や FD 研修会等の対面での FD 活動が積極的に展開できたので、報告する。

I. 学生による授業アンケート

授業改善に向けて、全学科全履修者を対象に「授業項目」「担当教員」「自分自身」に関する質問項目について学生による授業アンケートを実施した。アンケート結果は、昨年度より外部委託業者に集計を依頼し、集計データより授業設計の段階からそのプロセスを振り返られるようフィードバックしている。

しかしながら、学生の前期授業アンケートの回答率は 1 年生では 44.6%、2 年生 15.5%、3 年生 12.7%と学年が進むにつれて低下傾向にある。そのような中で、学生に働きかけアンケートの回答率を上昇させた学科もあり、この取り組みを来年度に活用することで全体の回答率の上昇を期待したい。

II. 学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは学科単位で実施している。学外実習は感染症対策については昨年とほぼ同様に行いつつ、従来通り病院等で実習を行うことができた。実習指導改善に向けて「実習項目」「担当教員」「実習指導者」「自分自身」に関する質問項目について実施した。アンケート結果は各実習単位認定者にフィードバックした。

III. ピアレビュー

本学では授業について他者から評価、検証することで、相互に知識や授業内容・授業方法を共有し、授業改善に向けた取り組みを積極的に実施している。今年度のピアレビュー実施率は全体で 47.5%であり、昨年度より 3.6%の上昇が確認された。学科によっては、ピアレビュー可能な授業科目について授業者の情報一覧を学科全体で周知して、授業公開者と見学者の交渉負担を減らした取り組みも見られた。

IV. 学生FD推進

「授業改善・大学生活向上のための交流会」として学生（13 名）と教員（FD 委員 4 名）の交流会（9 月 19 日）を企画し実施した。参加した学生からは、授業科目やカリキュラム、自身の学びに関しての率直な意見が多くあげられ、活発に発表し合う様子が見受けられた。今後も定期的に意見交換の場を設け、学生の意見を積極的に聴取し、必要な情報や話題を大学側からも提供して行きたいと考える。

<交流会の様子>



V. FD 研修会

川越明日香氏（熊本大学大学教育統括管理運営機構・准教授）による「学修者本位の教育に向けたアクティブラーニングのコツ」をテーマに FD 研修会（9月6日）を実施した。授業設計、授業方法、深い学びに向けた授業のコツについて体系的、かつ具体的な例を豊富に示し説明され、ワークショップもあり、体験的に研修を受けることができた。受講者からは「教育の全体像を理解できた」等の感想が得られ、大好評であった。

<FD 研修会の様子>



VI. 教育研修体系による研修

ファーストレベル FD 研修会（2月28日）として大学教育経験5年以内の教員を対象に開催した。二部構成で企画し、第一部は竹内一夫氏（群馬大学健康支援センター副センター長・教授）より「大学生のメンタルヘルス不調とその対応法」、第二部は FD 研修会に引き続いて川越明日香氏より「ルーブリックによる授業評価」をテーマに実施した。竹内氏の講演については「多様化している大学生への対応法について専門医として最新の情報を聞いた。」また川越氏の講演については「確かなエビデンスのもとに授業を振り返るいい機会となった。」等、好評な感想が寄せられた。

研修会の当日に学科によっては、実習指導等で参加が不可能な教員もみられたが、録画対応で補充した。

<ファーストレベル研修会の様子>

